

1. IFERC 事業委員会の開催

9月27~28日に国際核融合エネルギー研究センター (IFERC) 事業の事業委員会が六ヶ所の国際核融合エネルギー研究センターで開催された(図1参照). 欧州からは、カール・ラックナー議長を含め委員3名(TV会議で参加)と専門家7名,日本からは福山淳京都大学教授を含め委員3名と専門家7名,これに中島事業長および事業チーム員7名並びに事務局1名が参加した.

今回の事業委員会では、IFERC事業チームが作成した事業計画改訂案や2012年の作業計画を審議し、それらを運営委員会に承認を求めるため提出するよう勧告した。今回は特に、核融合プラントの安全性研究や原型炉 R&D のレビューの提案の後、それらを含む、2012年の作業計画案と事業計画の改定案が提案された。なお、2 日目には、原型炉 R&D 棟と計算機・遠隔実験棟の視察が行われた。

2. Bull 社の計算機の搬入が始まる

計算機・遠隔実験棟の計算機室及び計算機補機室の工事については、冷水供給設備や電源設備の工事がほぼ終了し、計算機の電源設備への電気の供給や冷水供給設備の試運転が開始されている。また、日本 SGI の計算機周辺設備等の据付調整も順調に進んでおり、計算機の搬入も 8 月23 日から開始された(図 2 参照)

またIFERC事業委員会の開催と合わせて開催された,計算機シミュレーションセンターの日欧技術会合では、計算機据付け、輸送スケジュール、計算機への電気の供給、調整のため設置する高速ネットワーク、10月から常駐するサポートチーム等々の状況について確認、協議がなされた。

図 1 第 9 回 IFERC 事業委員会 (9 月28日,国際核融合エネルギー研究センターにて)

3. 衆議院文部科学委員会の視察

8月24日に衆議院文部科学委員会(田中真紀子委員長以下19名の国会議員)の視察があった(図3). 視察後の記者ブリーフィングで、田中委員長より、核融合の研究開発について、先行投資として、厳しい財政事情ではあるが日本が率先して行うべき、現場で国際協力が行われているのは素晴らしいという発言があり、視察後、理事長へお礼の書簡も届いた。

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)









図2 計算機・遠隔実験棟の工事の状況. 計算機・遠隔実験棟2階計算機室へ据付けられたラック (左上)や無停電電源等(UPS,右上),1階計算機補機室 の冷水供給ヘッダ(右上),コンピューターラックの搬送 作業(右下)



図3 文部科学委員会の視察 (8月24日,国際核融合エネルギー研究センターにて)